３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp

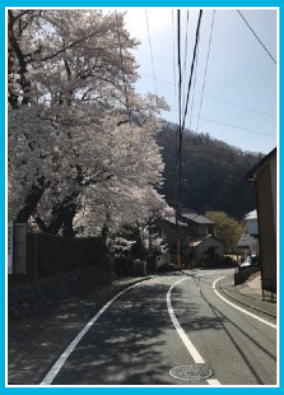
No.465-466

大雨の予報が一転、快晴の竹林整備

【定例活動報告】小原本陣の森

山の木々と桜のトーンを楽しみながらの朝の道。今年は桜の開花が例年になく早咲きで先月には花見を済ませたが、ここ相模原では少し遅く今が満開過ぎの時期であり、登山者の目を楽しませてくれる。森林整備班は本来小原の活動日であるが、基地の移転に関する折衝が続いているため本日も嵐山に入った。本日は山主の方との話合いと共に、嵐山の切捨て間伐材の数量を把握するためにエリア全体を歩き測量した。特にA地区は「命の森」専従区のため念入りに測量を行った。大体の目処がたったので、マッシュプーリー集材機をどこに設置するかを香取氏と決定した。これで材の集材は可能と判断できたが小屋の撤収が難関である。特に出来立ての乾燥小屋の移設に関しては問題山積である。設置場所の問題であるが小原活性化協議会や自治会の重鎮の方々との交渉の中で気長に解決を図りたいと思った。しかし20年の歳月の重みをつくづく感じる今日

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。



この頃である。

登山者の目を楽しませてくれる。森林整備班は本来小原の活動日であるが、基地の移転に関する折衝が続いているため本日も嵐山に入った。本日は山主の方との話合いと共に、嵐山の切捨て間伐材の数量を把握するためにエリア全体を歩き測量した。特にA地区は「命の森」専従区のため念入りに測量を行った。大体の目処がたったので、マッシュプーリー集材機をどこに設置するかを香取氏と決定した。これで材の集材は可能と判断できたが小屋の撤収が難関である。特に出来立ての乾燥小屋の移設に関しては問題山積である。設置場所の問題であるが小原活性化協議会や自治会の重鎮の方々との交渉の中で気長に解決を図りたいと思った。しかし20年の歳月の重みをつくづく感じる今日この頃である。

マッシュプーリー集材機をどこに設置するかを香取氏と決定した。これで材の集材は可能と判断できたが小屋の撤収が難関である。特に出来立ての乾燥小屋の移設に関しては問題山積である。設置場所の問題であるが小原活性化協議会や自治会の重鎮の方々との設置場所の問題であるが小原活性化協議会や自治会の重鎮の方々との交渉の中で気長に解決を図りたいと思った。しかし20年の歳月の重みをつくづく考えた日であった。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

天気予報では、今日一日中雨の予報だったためいつもの電車も国道も車が少なく人もまばらな朝でした。実際駅に向かうまで横殴りの雨に打たれ衣服も濡れた状態だった。ところがどうでしょう！高尾駅を過ぎ小仏トンネルを抜けた途端に電車の乗客から歓喜の声があちらこちらから上がった。雨もなく青空が広がっていたからです。

相模湖駅に集まった人は雨を予期してか今までで最も少ないのではないかと思う程25人程度であった。お花畑班と望星高校の学生、NOVAと地球環境部から一人で参加という状況だった。そこで活動を竹林整備とタケノコ堀に変更した。みんな楽しそうにタケノコと格闘し午前中で全員持ち帰ることができるだけの収穫があった。竹林の整備も忘れず行い、昼ご飯を頂いた後は、小原の新基地周辺の下見と「知足の森」の案内をさせて頂き、全員無事に駅に帰ることができた。これも天候のお陰で楽しく作業を終えることができた。（報告：小林　照夫）

今月は朝方から雨風が強くて山では活動できないかもしれないと思っていましたが、行きの電車で相模湖へのトンネルを抜けると青空が広がっていて、外で活動できると確信しました。天候への不安から中には参加を自粛した人もいましたが、その不安を払拭するような快晴の中楽しく活動することができました

集まった人が普段より少なかったこともあり、小原で全員で活動することになりました。まずは畑で葉玉ネギを収穫しました。このネギは、フォレストノバの新入生歓迎たこ焼きパーティーでたこ焼きの材料として使わせていただきました。

そして、望星高校の人たちも合流して竹林整備に移りました。ちょうどタケノコが生えている時期だったので、竹林整備の傍ら（ではない人もいましたが…）タケノコ狩りも楽しむことができました。参加者1人あたり1～2個ずつぐらい持って帰れるほどたくさん収穫できました。このタケノコも新歓でみそ汁にしていただきました。

午後は孫山や知足の森に全員で足を運び、小原の新しい基地の確認をしました。今月は天候のことがあって不規則な動きが多かったですが、受験を終えて戻って来た木村さんや地球環境部の中学生など普段とは異なるメンバーで活動できて新鮮でした。今後、新たなメンバーが入ってくることでフォレストノバというグループが活性化されたらいいな、と思いました。また、ネギやタケノコなど活動を通して得た食材を新歓で使うことができて、普段の作業のイメージを持ってもらえたと思うので新入生に対して良いアピールになったと実感しています。今年はフォレストノバにとっても勝負の年だと思うので、新入生獲得にむけて一層頑張っていきたいです。
（報告：服部　七星）

緑のダムの今後の活動にあたって

国の林業行政の見直しによる「森林環境税」の施行によって、私たち森林ボランティア活動をしているNPOが今までの様な活動を継続する事が難しい局面を迎えている。

「森林環境税」の施行による森林整備事業で山主と契約できるのは、例えば森林組合とか林業業者が対象となる。私たちNPO法人「緑のダム北相模」は20年ほどの継続実績とNPOでは世界で唯一の国際認証のFSCを取得した経験を持ち、森林整備の保全活動も長年手掛けてきた。来年度から津久井郡森林組合が代わって嵐山全体の森林整備と管理をすることになり、私たちの活動基地の嵐山もその対象に含まれている。

そこで、川田晃氏、小林照夫氏、宮村連理氏等と活動基地を小原を軸とした森林地域に移す事を検討し始めた。宮村氏が第1日曜日に実施統括している「知足の森」とForestoClassが整備している山主の永井広紀様所有の「小原の森」での活動拡充の可能性について小原地域などでお世話になっている永井広紀様、小林先生などと話し合いを始めている。活動基地を移すための現在の嵐山基地の施設の撤去と同時に移転後の道具等の収納他、今後の活動を計画的、合理的に進める必要があり、会の連携と小原の方々との情報の共有が益々必要になってくる。 そして小原の方々の協力を得ながら、みんなで知恵を出し合い、今後の活動を今まで以上に実りあるものにしていきたいと思っている。（報告：丸茂　喬）

桜井尚武の森のコラム

「早春の花ミツバツツジ（*Rhododendron dilatatum*）」

春、水源の窪みを渡って嵐山の頂に向かう東海自然歩道に出ると、相模湖方面に開ける空間に赤紫の鮮やかな色を放つ花があります（写真1）。ミツバツツジです（写真2）。ツツジ科は11属で約88種からなる種数の多い科で、本種はこの科の種数の58%を占めるツツジ属に分類されます。ミツバツツジの仲間だけでも10種以上ありますが、嵐山周辺ではミツバツツジが目立ちます。葉が開く前に似た花を展開させるのに、少し高標高地に分布するトウゴクミツバツツジ（*R.wadanum*）があります。この種は昔よく通った奥秩父の標高1,000m以上のところでは普通に見ましたが、嵐山ではまだ見つけていません。かつて山歩きをしていた時、闇が少しづつ明けぼんやりと周囲が見えるようになる頃、尾根筋に夜光を発しているか

図1 東海自然歩道脇のミツバツツジ（2017.04.16）

図2　ミツバツツジ（2017.04.16）

図3　トウゴクミツバツツジ（2017.06.03丹沢大室山）

のように現れる妖艶な赤紫の花の群れを思い出します。奥多摩あたりを歩く時も同じように赤紫の花が迎え、見送ってくれました。花の色に気を取られていて、この二つを区別してみたことはありませんでした。昨年6月3日に丹沢の大室山（1587m）に行った時も、同じような花の群落に出会いました。雄蕊（おしべ）を数えてみると5本以上ありました（写真3）。大室山は高いので、トウゴクミツバツツジが生育しているのでした。ミツバツツジの雄蕊は5本、トウゴクミツバツツジは他の多くのツツジ類同様10本なので区別できます。

似たツツジにコバノミツバツツジ（*R.reticulatum*）があります。雄蕊は10本です。この種は静岡県西部以西に分布するというので、嵐山界隈にはないだろうと思います。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】Foresto Class

メンバーの都合が合わず今回の活動は久々の定例活動だったのですが、色々あって今日も１人…笑。さて今回は、萩山の間伐を終え次に活動を始める小原の郷の奥にある永井広樹さん、勲さん所有の『入山』の下見をしてきました。以前に一度歩いた事はありましたが、改めて植わっている木や周りの様子を確認し、自分たちがどういう手入れや活用ができるのか色々とイメージをしながら下から頂上まで歩いてみました。

率直な感想は「道から遠い」また「広葉樹が多く、スギやヒノキといった針葉樹がほとんどない」なので、ちょっと木を伐って使うために搬出するというのは難しいかなという思いでした。はて、それではここでどんな事ができるのか…パッと閃いたのは『散策路』、ここは珍しく成長した針葉樹と広葉樹が隣接しているので林の比較もできますし、間伐をして整備をすることで見た目やそこの環境が良くなる事での森林セラピーのような効果も期待できるのでは。

ただ、この辺りは同じような散策路がいくつかあり、しかもそれらが上手く利用されていない現状があります。似たようなものを作っても意味がないですし、それらとどう交えて作成するか、そこの山全体の見所だったりポイントをしっかり考える事が大事になってくるかと思います。

自分たちのテーマである「森と人との暮らしの新たな提案」、今度のフィールドではいつもの木材生産という活用方法ではない森の利用方法を考えていくことになりそうなので、また新たな気づきや形にしていける頑張ります！

二藤　政毅（Foresto Class）

【若者の森づくり】地球環境部

今月号では本会の若者の森づくりに参加する東海大望星高校の生徒の感想をご紹介します。望星高校は通信制単位制の高校で、これまで総合的な

学習の時間の講座ごとでの募集、参加でしたが、今年度より、講座が半年単位になり、継続的に参加できる生徒がいるそうです。これからの活躍が楽しみです。

「初めて参加して」

私は、第一回目の望星の森を経験し、いくつかのことを知ることができました。私たちは最初に、目的地までの道を駅から徒歩で移動したのですが、坂やすべりやすい道等、体力を使う個所が多く、日頃から動かないゆえの体力不足を思い知りました。

当日は集合の時間直前まで、豪雨だった為、午前は最初の予定から逸れ、筍堀と竹の伐採を行いました。竹の伐採では、切る方向を選び、できる限り安全かつ運びやすいように切り倒すために工夫して切る技術を知り、その素晴らしさを知りました。鋸を使っての伐採だったのですが、想像以上に力が必要で、ここでも体力不足を思い知らされたのですが、竹を切り倒せた際の達成感は良いものでしたし、良い経験になったと思っております。

午後は山の視察へ歩きました。道はこれまで程ではなく、ある程度整備されていたので、歩きやすいように感じました。山には様々な植物が自生しており、都会ではあまり感じられないような大自然で、とても良い場所でした。次回の講座も楽しみです。

五井　くるみ（東海大学付属望星高校２年）

「たけのこ堀―こんなに大変なのか！」

軍手をはめた手にスコップを握りしめ、地面に向かって勢いよく突き刺す。ドッスという重たい音とともに３分の１ほど地面に埋まったスコップ。そこに片足をかけ、全体重でもって土の中へと深く押し込んでゆく。そして、慎重に土を掘り出す。特に幾重にも張り巡らされている根っこに苦戦させられる。スコップにどれほどの力を込めようと根っこに阻まれてしまう。たけのこ堀がこんなに大変だったとは。自然の力強さに身をもって感じた。初めは腫れ物に触るかのようにと言われていた手つきも次第に大胆になってきた。より大きいものを掘り出してやろうと作業の手に熱が入る。たけのこ堀初挑戦にしては上手くやっているのではないか。などと思いつつ、両腕に抱えたたけのこに満足した。その後、家に持ち帰ったたけのこの大部分が皮で中身が僅かしかないことを知り、少々がっかりしたが、たけのこごはんと鰹節で和えたものでおいしくいただいた。

次回もぜひとも自分の手で何かを採って持ち帰ることができたらいいと思うとともに新たな拠点、新天地での活動でどんなことができるか楽しみにしたい。

阿部　遼太朗（東海大学付属望星高校３年）

【若者の森づくり】Forest Nova

今回は子供達に木材について知ってもらうために桜祭りに参加して小さい子供達と一緒に木で魚を作りました。今回この企画にした理由は、間伐をして丸い木が余っていたのでこれを使って何かできないかと思いこの企画にしました。桜祭りまでに木を半分に切って子供達が怪我しないようにヤスリをかけました、かなり量があったのでかなり大変でした。そして参加してくれた子供達は楽しそうに木で魚を作っていました。ボンドが足りなくアクシデントなどがありましたが、それでも最後までやることができました。作った魚はは子供達が、とても嬉しそうに家にもって帰って行きました。今回は子供達がしっかりと自分達で考えて、木で魚を作ることができていたために、色々な作品ができていてみていても楽しかったです。

今回の参加で、できた経験を生かして次の活動に繋げていきたいです。

山口　拓海（Forest Nova）

【イベント報告】
相模原市民桜まつり

第４５回相模原市民桜まつりが４月８日、９日に開催された。「相模原市民桜まつり」とは、昭和４９（１９７４)年、市制施行２０周年を機に,相模原市のふるさとづくりをテーマに開始されたイベントで(４年に一度行われる統一地方選挙の年は５月に「若葉まつり」として行われる)、よさこい踊りパレード、露店、神輿パレード等様々な催しが行われている。

緑のダム北相模は第３４回の「若葉まつり」以来、市役所前の駐車場２階のほぼ全面（約６５０坪）の運営をまかされているが、環境をテーマとしたゾーンと位置づけ、森林の保全と活用、森林整備・地域材の活用等のPR活動を継続しており、参加回数は今回で１２回を数えることになる。

今回は森林の整備・有効活用といったテーマに加え、資源の有効活用(リサイクル、自然エネルギーの活用)といった視点も取り入れ、約２０団体の協力のもと、積木広場、丸太切、木工製品製作、木工パズル、環境グッズの販売・宣伝のほか、フリーマーケット、電気自動車の展示・イベントを企画し、環境問題のPRも行った。

幸いなことに、一時風が強い時間帯はあったものの、今回は天候にも恵まれ、控えめにみても、来場者は初日が１５００人、２日目は５０００人を超え、会場は例年を上回る賑わいをみせていた。

中でも、丸太切と３万個の積木を用意した積木広場は子供たちに好評で、慣れない鋸と丸太に悪戦苦闘する子供たち、また、朝早くから終了時刻まで、用意したスペースをフルに使い積木を楽しむ子供たちの姿をみて、木と親しむ機会を持つことで、子供たちにも森林・環境問題といったものに多少なりとも興味を持ってもらえたのではないかと思っている。

川田　晃（本会、理事長代行）

【事務局から】

積水ハウスマッチングプログラムに採択

昨年度に続きまして、積水ハウスマッチングプログラムに採択されました。今年度は知足の森での活動をベースに、積み木のイベント、夏休みの小菅村での林業研修などを予定しております。ご支援ありがとうございます。ご期待に応えられるよう活動していきたいと思います。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。